

ご提言箱等にいただきましたご提言について、次のとおり回答いたします。

ご提言箱

FAX

メール

TEL

手渡し

No. R4-28

ご提言要旨      その他	回答      総務企画課
<p>内科横の身長、体重計に「そのままのって下さい」と書いているので乗ると「即ぐに降りてくるもの」と待っていたら、降りてこないで待っていても降りてこない。前を向いたり後ろを向いたりしていたら、他の患者さんが「しばらくのってないと降りてこない」と注言をしてくれた。「しばらく〇〇秒お待ち下さい」と注記していただいたら、ありがたい。</p>	<p>この度は、内科外来前の身長体重計の件で、ご不便をおかけし大変申し訳ございません。</p> <p>早速、ご指摘いただいた現状を調査したところ、床面が不安定であることが判明しましたので、現在、床の素材を改修するべく調査をしています。</p> <p>これに加えて、まず、この装置の台上にのっていただいて体重を測定し、続いてバーが降下し身長を測定する機能となっており、台上に乗っていただく時間が短い場合や、利用者が台上でふらついた場合等は体重測定に一定以上の時間を要してしまい、バーが降下するタイミングのずれが生じることも判明いたしました。</p> <p>このため、装置付近に、このようなことを回避する目的で掲示をさせていただきました。</p> <p>こうした理由で、ご不便をお詫び申し上げますとともに、実際にご利用いただく方からの貴重なご提言に対して感謝申し上げます。</p>

ご提言箱等にいただきましたご提言について、次のとおり回答いたします。

ご提言箱

FAX

メール

TEL

手渡し

No. R4-30①

ご提言要旨 診療	回答 病院長
<p>病院は近くが一番という思いで、このさぬき市民病院をいつもあてにしています。が、先日10/12の早朝4時すぎ、主人が階段で転倒。救急車がすぐきてくれましたが、ここはダメで栗林病院へ。症状はこと無きをえて、翌日退院のはこびとなりヤレヤレ。一ヶ月前には、寒川町にすむおばも午前中にもかかわらず、ここはダメで、栗林病院へ。近くに公立の立派な病院があるにもかかわらず、救急の体制が貧弱なのではないか。私共、高齢者にとっては、なによりの命綱です。救急に対する、スタッフの充実を切に望みます。</p> <p>↓ 次項へ続く</p>	<p>普段から当院をご利用頂いている方のように、深く感謝申し上げます。</p> <p>さて、不幸にも2度に亘って受傷され、その際に当院が救急対応できなかったことを伺って、誠に残念かつ申し訳なく存じます。</p> <p>ただ、日中であっても、手術などで整形外科医の手が塞がっていると対応できませんし、あるいは複雑な外傷では大きな病院での対応が必要であるため、その旨を救急隊に指示することもあることを御理解ください。</p> <p>また、時間外・休日においては、当直医師が整形外科医でない場合には、整形外科が当直している他院への受診をお勧めするしかなく、「せっかく、公立病院があるのに役に立たない！！」とお叱り頂いてもどうにもならないのが現状です。</p> <p>さて、「24時間対応、断らない救急！」というのが“救急病院”の理想であることは十分に理解していますが、それを維持するための人員や費用は決して容易ではなく、かつ、当院のような規模の病院では、一つの診療科医師が全ての診療科の対応をせざるを得ないのが現状です。</p>

ご提言箱等にいただきましたご提言について、次のとおり回答いたします。

ご提言箱

FAX

メール

TEL

手渡し

No. R4-30②

ご提言要旨 診療	回答 病院長
	<p>さらに、医療が専門かつ高度になっている現在では、「一刻も早く、専門医の元へ搬送すること」が必要な要件とされるため、当院のように郡部にある病院では、比較的軽症の患者さんしか診察できない場合が多く、複数診療科の医師が当直している大規模病院への受診をお勧めすることが多いことも実情です。</p> <p>加えて、“医師の働き方改革”によって、医師の労働時間がさらに制限される時代の潮流にあっては、医師数の少ない中小規模病院では、時間外の救急医療はさらに制限されることが懸念されるため、当院をご利用の方々には可能な限り日中の受診をお勧めいたします。</p> <p>なお、当院通院中の患者さんが他院に入院された場合には、翌日以降、地域連携室を通じて当院での病状や治療の確認が可能ですので、主治医の先生にお伝えください。</p> <p>また、「私のカルテ」というデータファイル用の冊子も準備しておりますので、特に、長期間にわたって当院に通院されている方は有事に備えてご利用ください。</p>

ご提言箱等にいただきましたご提言について、次のとおり回答いたします。

ご提言箱      FAX      メール      TEL      手渡し      No. R4-31

ご提言要旨      接遇	回答      看護部
<p>2022年10月20日（木）病棟変更時（〇階西病棟→東病棟）</p> <p>入院患者は個人差ありで病棟（病室）移動の際、良く確認検討のうえで！！翌日21日（金）14:00～入浴時、入院して（初めて目にした）シャワールームの狭さ（椅子が置けない）介助人が入れない。</p> <p>立ったままシャワーをしてもらうのもつかむ場所のない不安・恐怖心、自立でシャンプー・シャワー不可能な患者をよけいに不安感もち→不信感が増える。シャワー後も丸イスに座る際、バスタオルを敷いて欲しいと言うとパジャマ敷きましたと返答。今まで4日間着ていたパジャマをシャワーで清潔にした身体の意味はどこへ？</p> <p>看護・介助の基本を徹底して入院患者の安心生活を助けて欲しいです。今回の入院は特に不安な事が多かったので退院に向かったの安心感を希望します。</p>	<p>この度は、不安な思いをさせてしまい大変申し訳ありませんでした。</p> <p>いただきましたご意見を基に、双方の病棟で話し合いを行いました。</p> <p>まず、転棟の際には、病室だけではなく、共有スペースの環境も患者さんご本人に確認をしていたこととします。また、看護・介助の基本を徹底する点については、患者中心の看護が提供できるように、カンファレンスをとおして情報の共有、倫理的な勉強会も開催していくことを考えています。</p> <p>快適な療養環境が提供できず、安心な入院生活を送れなかったこと、スタッフ全員で真摯に受け止めて今後の看護・介護を良い方向となるように努めていきます。</p> <p>ご意見、ありがとうございました。</p>

ご提言箱等にいただきましたご提言について、次のとおり回答いたします。

ご提言箱

FAX

メール

TEL

手渡し

No. R4-32

ご提言要旨 接遇	回答 看護部
<p>感謝。こんなに長い間の入院生活は始めてですが楽しく過ごせました。スタッフの皆様方のやさしい心づかいがうれしかったです。噛んで砕いて頭の中へゆっくりと大きい声で話して下さる〇〇さん、心に残ります。尊敬の意味で西のお局様と呼んでいます。元気印の〇〇様、手の甲のエクボ、ボンレスハムの様な腕かみつきたい。皆さんなにげなく接して下さった事、自然で良いです。楽しい冥途の土産話として心に残しておきます。気ままなばあさんに付き合ってくれてだまって見守ってくれた事に感謝しています。ありがとうございました。</p>	<p>この度は感謝のお手紙ありがとうございました。長い間の入院生活、不安も多くあったと思います。私たち看護師の対応で、不安が少しでも軽減でき笑顔になれたのでしたら私たち看護師も大変嬉しく思います。入院患者さんが少しでも笑顔になれ、さぬき市民病院に入院して良かったと思えるような看護ができるよう、日々努力していきます。</p>